

【様式】

平成31年度 学校マネジメントシート

学校名 (かがやき特別支援学校)

1 目指す姿

<p>(1) 目指す学校像</p>	<p>医療及び福祉機関と連携した教育環境の中で、子どもたちが学びあい教育活動全体を通して学ぶ楽しさとわかる喜びを伝え、子どもたちが自分の願いや目標を達成できるよう指導・支援する学校</p> <p>○隣・併設する病院と連携し、入院する児童生徒の一人ひとりのニーズに応じた教育を推進する。</p> <p>○本・分校3校が連携し、県内の特別支援学校のセンター的機能を牽引するセンターオブセンターとして、本県の病弱教育・肢体不自由教育及び発達障がい支援を推進する。</p> <p>【緑ヶ丘校】 国立病院機構三重病院・三重大学医学部附属病院小児科病棟との連携による病弱虚弱教育の拠点校</p> <p>【草の実校】 三重県立子ども心身発達医療センター（以下、医療センター）の整形外科・リハビリテーション科、草の実病棟との連携による肢体不自由教育の拠点校</p> <p>【あすなろ校】 医療センターの児童精神科、あすなろ病棟との連携による発達障がい支援の拠点校</p>
<p>育みたい児童生徒像</p>	<p>○思いやりと優しい気持ちをもち、自他のいのちを大切にする子ども</p> <p>○確かな学力と社会性を身につけ、生活の中で生かそうとする子ども</p> <p>○友だちと助け合い、知恵を合わせて課題を解決しようとする子ども</p> <p>【緑ヶ丘校】 一人ひとりに応じた健康的な生活や自分らしさを大切に、確かな学力とともに自信と希望をもって地域に戻ることができる児童生徒を育てる。</p> <p>【草の実校】 一人ひとりの心身の発達に応じた学力・コミュニケーション能力や豊かな人間性を身につけ、積極的に社会参加することができる児童生徒を育てる。</p> <p>【あすなろ校】 一人ひとりに応じた学び方や対人関係の築き方を身につけ、確かな学力と自信をもって生活を送ることができる児童生徒を育てる。</p>
<p>(2) ありたい教職員像</p>	<p>○隣・併設する病院との連携を密にし、病弱教育・肢体不自由教育、および発達障がい支援の専門的な知識を有するとともに、共感的なまなざしをもって、授業改善に積極的に取り組んでいる。</p> <p>○本県の病弱教育・肢体不自由教育および発達障がい支援の中核となる学校の教員として県内の特別支援教育を推進するという使命感をもち、3校共通の校務分掌組織（指導部・運営部・支援部で構成される3部体制）のもとで同僚や関係機関との協働を通して自らのキャリアアップに努めている。</p> <p>【緑ヶ丘校】 国立病院機構三重病院・三重大学医学部附属病院の小児科病棟との連携</p> <p>【草の実校】 医療センターの整形外科・リハビリテーション科、草の実病棟との連携</p> <p>【あすなろ校】 医療センターの児童精神科、あすなろ病棟との連携</p>

2 現状認識

<p>(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待</p>	<p><児童生徒> ○毎日元気に登校ができ、学習や体験活動を通して楽しい学校生活を送りたいと願っている。 ○「わかる授業」に基づく学力の保障や退院後の前籍校への復籍や社会参加につながる技能・知識の習得を望んでいる。</p> <p><保護者> ○退院後の復籍に向けて、児童生徒の実態に合わせた丁寧な指導が行われることを望んでいる。 ○児童生徒の一人ひとりのニーズに応じた教育が行われ、自己実現と社会参加につながる技能・知識を習得し、個々に応じた進路が保障されることを望んでいる</p> <p><前籍校> ○支援情報の共有や具体的な助言等の支援によるスムーズな復帰を期待している。</p>	
<p>(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待</p>	<p style="text-align: center;">連携する相手からの要望・期待</p> <p><保護者> ○復学時等に学習進度で遅れないこと</p> <p><前籍校> ○治療後の円滑な復籍</p> <p><病院> ○学校生活に係る情報共有 ○支援の共通理解、役割分担の明確化</p> <p><関係諸機関> ○卒業後の生活を見越した密接な連携と生徒の情報提供 ○生徒の基本的な生活習慣の確立と保護者の協力</p>	<p style="text-align: center;">連携する相手への要望・期待</p> <p><保護者> ○見守りや教育活動に対する理解と協力</p> <p><前籍校> ○支援情報の共有</p> <p><病院> ○医療情報等の共有と密接な連携</p> <p>○教育環境・内容の充実に係る理解と協力</p> <p><関係諸機関> ○卒業後の進路及び生活に係る情報提供と支援 ○就労についての理解と就業体験の機会の増加</p>
<p>(3) 前年度の学校関係者評価等</p>	<p>【緑ヶ丘校】 ○平成 29 年度にかがやきに変わり 3 校体制となったが、行事等も各校での実施となっており、何が変わったのか、なぜ一緒に行わないのか理解しにくい。今後は 3 校間の垣根を低くすることを意識してはどうか。 ○小中学校では、課題を抱える子どもの家庭をどのように支えていけばよいか困っているケースが多い。復籍支援の際に病院・家庭・前籍校・福祉機関等との連携の充実など、子どもたちのそだちの保障のためにもかがやきに求める期待は大きい。</p> <p>【草の実校】 ○公開授業等は、学校関係者だけでなく幼保や療育関係者、看護師、大学生等にも広くアピールし、肢体不自由に係る専門性向上の取組をさらに推進してほしい。 ○災害への対応として医療センターと合同訓練を実施するなどいっそうの連携を図るとともに、地域との情報共有や連携体制についても検討を進める必要がある。</p> <p>【あすなろ校】 ○かがやき開校後、あすなろ分校と医療センター間では、協力体制ができてきたが、緑ヶ丘校と草の実校を含めた 3 校の連携はバラバラな印象を受ける。ひとつの学校として子どもが行き来できるなど柔軟な連携が必要である。 ○小中学校で少し対応を工夫すれば学校で適応できるはずの子どもが医療センターの診療を待っている。医療センターとかがやきを中心に地域の特別支援学校が連携し、小中学校への支援を充実させてほしい。 ○かがやきの役割として学生ボランティアの活用など、地域の資源を利用した人材の育成も必要である。</p>	

(4) 現状と課題	教育活動	<p>○一人ひとりの児童生徒の病状や学習状況（前籍校で使用されている教科書の違い、授業進度の差等）、進路状況が様々であることから、多様な教育的ニーズに応えるために丁寧な実態把握と柔軟な対応を行う必要がある。</p> <p>○児童生徒の前籍校への復籍に向けて、相手校との綿密な連携を進めながら細やかな支援を行う必要がある。</p> <p>○本・分校3校が隣・併設する病院の多職種（医師、看護師、保育士、PT・OT・ST等）と連携した「チームかがやき」としての機動力のある支援体制を構築し、教育相談等の地域支援、「かがやき講座」等による研修支援、医療と連携した先進的な情報の積極的な発信等に努めるセンターオブセンター機能を発揮する必要がある。</p>
	学校運営等	<p>○本・分校3校によるスケールメリットを意識した全教職員の統一感のある指導や情報共有に努めるとともに3部体制（指導部・運営部・支援部）による組織的・効率的な校務運営を進める必要がある。</p> <p>○学校における不祥事の再発防止に向け「信頼される学校であるための行動計画」をふまえた学校運営を進め、学校の全教職員にコンプライアンスの徹底を浸透させる必要がある。</p> <p>○教職員が自ら学び生き生きと業務に取り組むことで自己の力を十分に発揮するとともに、助け合いながら業務を行うことで達成感や充実感を共有できる風通しの良い職場環境づくりを進め、過重労働の縮減に波及させる必要がある。</p>

3 中長期的な重点目標

教育活動	<p>○多様な教育的ニーズへの対応</p> <p>【緑ヶ丘校】 児童生徒の病状や学習状況を転入時に丁寧に把握した上で、病状に配慮した教育活動を行い、復籍を見据えて確実な支援を進める。</p> <p>【草の実校】 医療センターとの連携や外部講師を活用した研修等をとおして、学校全体で肢体不自由教育に係る専門性の向上に取り組み、特に自立活動の指導を中心とした授業改善を図ることで自立と社会参画につながる力の育成を図る。</p> <p>【あすなる校】 国事業（発達障がいの可能性のある児童生徒等に対する教科指導法研究事業）を活用した学習アセスメント等に基づく児童生徒一人ひとりの丁寧な実態把握により、障がい特性や学習状況に応じた柔軟な指導・支援の充実を図る。</p> <p>○前籍校への復籍支援</p> <p>【緑ヶ丘校】 復籍を見すえて前籍校や関係機関と入院直後から連携をはじめ、児童生徒や保護者の安心感につながる支援を進める。</p> <p>【草の実校】 医療センターや前籍校等と連携して、児童生徒一人ひとりに応じた支援情報を確実に引き継ぎ、円滑な復籍支援を進める。</p> <p>【あすなる校】 医療センターと連携し、前籍校への児童生徒一人ひとりに応じた支援情報の引き継ぎを着実にを行い、円滑な復籍や進学につながる支援を進める。</p> <p>○センターオブセンター機能の発揮</p> <p>【緑ヶ丘校】 三重病院・三重大病院との連携のもとで病弱教育に係る情報発信に努めるとともに、国事業（高等学校段階における入院生徒に対する教育保障体制整備事業）を活用した三重大病院に入院する高校生の授業空白に対する支援、高等学校への発達障がい支援の充実を図る。</p> <p>【草の実校】 医療センターと連携した支援の充実や情報の発信等により、県内の小中学校における肢体不自由に係る支援の充実を図る。</p> <p>【あすなる校】 医療センターと連携した支援の充実や情報の発信等により、発達障がい支援の拠点として県内の小中学校への支援の充実を図る。</p>
------	--

○3部体制による組織的・効率的な校務運営【3校共通】

本・分校3校で学校運営にあたるスケールメリットを生かしつつ、3部体制（指導部・運営部・支援部）による校務運営のいっそうの効率化を図る。

○コンプライアンスの徹底【3校共通】

本校で作成した「教職員の不祥事防止のためのセルフチェックリスト」を定期的に活用し、教職員全員がコンプライアンスの徹底を日常的に意識できる取組を進める。

○働きやすい職場環境づくり【3校共通】

教職員が達成感や充実感を共有できる職場環境作りを進める中で、総勤務時間の縮減につなげるとともに、介護等体験や学生ボランティア等の積極的な受入を進め、地域資源の活用に着目した人材育成を行う。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

項目	取組内容・指標	結果	備考
多様な教育的ニーズへの対応	<p>【緑ヶ丘校】 入院する児童生徒が学習空白を感じることなく円滑に復籍できる指導体制を確立する。 <活動指標> 児童生徒の授業進度を考慮した授業の実施 <成果指標> 児童生徒及び保護者アンケート結果により「本校の教育・支援に満足している」と回答した割合：90%以上</p> <p>【草の実校】 授業公開に向けた授業研究や校内研修をとおして授業改善を図る。 <活動指標> 医療センターの専門家と連携した授業作りの推進 <成果指標> 授業ふりかえりシートの作成と活用：教員1人あたり2回以上</p> <p>【あすなる校】 児童生徒の適切な実態把握のために国事業を活用して学習アセスメント（LDI-R/STRAW-R）等の充実を図る。 <活動指標> 学習アセスメントの充実に向けた校内研修会の計画的な実施 <成果指標> 学習アセスメントに係る校内研修会の実施回数：3回以上</p>	<p>【緑ヶ丘校】 前籍校との緊密な情報交換により学習進度に考慮した授業を実施 成果指標：達成 （アンケート満足度：93.5%）</p> <p>【草の実校】 毎月第2週に実施する医療センターとの連携に沿った授業づくり 成果指標：達成 （シート活用：各自2回以上）</p> <p>【あすなる校】 STRAW-R、LDI-R等アセスメントに係る校内研修会の実施 成果指標：達成 （研修会：3回）</p>	
前籍校への復籍支援	<p>【緑ヶ丘校】 スムーズな復籍に向けて支援のプロセスを見直し、学習空白を感じることなく復籍できる体制を確立する。 <活動指標> 校内共通の復籍支援のルール作り <成果指標> 復籍支援マニュアルの完成と前籍校への周知</p> <p>【草の実校】 必要に応じて医療センターとの連携による前籍校との情報共有を実施する。 <活動指標> 必要に応じた前籍校との情報共有の機会の設定 <成果指標> 前籍校との情報共有の実施：随時</p> <p>【あすなる校】 前籍校交流会等を活用して児童生徒の学習状況や支援のポイントなどを前籍校に伝え、よりスムーズな復籍を目指す。 <活動指標> 「かがやきファイル」（パーソナルカルテ）を中心とする前籍校へ提供するための引継ぎ資料の精選 <成果指標> 前籍校への提供資料パッケージ（児童生徒の実態、学習状況、具体的な支援方法等をまとめた引継ぎ資料一式）の完成</p>	<p>【緑ヶ丘】 学部毎に異なっていた支援方法を整理した復籍支援パンフレットを作成、今後活用 成果指標：達成 （パンフレット完成）</p> <p>【草の実校】 転出入時に関係者会議等を実施 成果指標：達成 （前籍校の授業見学、引継会等に参加）</p> <p>【あすなる校】 学部毎に引継資料を見直し、退院前の関係者会議で前籍校へ提供。 成果指標：達成</p>	

<p>センターオブセンター機能の発揮</p>	<p>【緑ヶ丘校】 ○三重大病院に入院中の高校生に対するICT機器を活用した学習支援のシステムを構築する。 <活動指標>国事業を活用した遠隔授業システムの確立及び在籍校との連携強化 <成果指標>遠隔授業の実施：10回以上 ○高等学校における発達障がい支援の方向性を研究し、望ましい支援のあり方を探る。 <活動指標>高等学校における発達障がい支援のニーズ把握 <成果指標>本校地域支援コーディネーターの発達障がい支援員への帯同：年間50回以上</p> <p>【草の実校】 ○医療センターの専門家との連携に基づく授業を公開し、肢体不自由教育に携わる関係者に情報を発信する。 <活動指標>各学部とも2例以上の公開授業の実施 <成果指標>公開授業参加者：20名以上 ○外部専門家の活用事例や自立活動教材の使用事例のデータベース化を進める。 <活動指標>HPにおける各種事例の掲載の充実 <成果指標>掲載事例：20例以上</p> <p>【あすなる校】 ○医療センター及び県立特別支援学校と連携し、小中学校に在籍する発達障がいのある児童生徒への支援を充実する。 <活動指標>医療センター及び県立特別支援学校との連携に基づく発達障がい支援の試行的取組を行う地域の拡大 <成果指標>当該児童生徒の在籍する小中学校を所管する地域の拡大：5市町（前年度1市） ○医療センターとの連携に基づく小中学校等の教員を対象とした発達障がい支援にかかる研修会の実施 <活動指標>発達障害支援に係る「かがやき」講座の実施および授業実践に基づく指導検討会の実施 <成果指標>小中学校教員および県立特別支援学校コーディネーター等の参加者総計：200名以上</p>	<p>【緑ヶ丘校】 ○三重大病院と本校間で機器実証。本人・保護者・在籍校と連携し、効果的な支援方法を模索 成果指標：達成 （14回実施） ○発達障がい支援員に帯同して高校を訪問しニーズ把握に着手 成果指標：達成困難 （22回）</p> <p>【草の実校】 ○公開授業（1/23）で全18事例を発表 成果指標：達成 （参加者：60名） ○実践事例の蓄積と情報発信 成果指標：年度内掲載 （事例6、教材15）</p> <p>【あすなる校】 ○医療センターからの依頼に基づく小中学校への支援の拡大 成果指標：達成 （鈴鹿、伊勢、桑名、津、志摩、尾鷲、紀宝、紀北、計8市町） ○発達障がい研修会（8/6、8/23）、実践報告会（12/24）を開催。 成果指標：達成 （参加者総計411名）</p>
------------------------	---	---

改善課題

多様な教育的ニーズに対応するため、3校とも本人・保護者や前籍校、病院・関係機関と緊密に連携し、ニーズの把握に努めたことで一定成果指標を達成できたことから、今後もより積極的に連携を図り丁寧な指導を進めたい。前籍校への復籍支援としては、3校でそれぞれ異なっていた復籍支援の方法を統一する取組を進めた結果、一定成果指標を達成できたことから、今後も前籍校との連携の中で周知し、有効な方法を模索し続けたい。

センター的機能については、病弱、肢体不自由、発達障がいの各分野における3校の専門性を活かした地域支援を展開できつつあるが、高等学校への発達障がい支援については支援要請も限られたことから成果指標が達成困難となったため、ニーズの掘り起こしを含め今後の取組には更なる工夫が必要である。

(2) 学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
<p>3部体制による組織的・効率的な校務運営</p>	<p>【3校共通】 本・分校3校の運営基盤となる3部体制のあり方を継続的に改善することで、より組織的・効率的な学校運営への改善を図る。 <活動指標>定期的な管理職会議及び3校会議の開催による業務改善に向けた継続的な検討 <成果指標>管理職会議及び3校会議の開催：毎月</p>	<p>【3校共通】 3校で共通化・分担できる業務の整理を継続して調整中。 成果指標：達成 （管理職会：月2回） （3校会議：8担当で計34回）</p>	

<p>コンプライアンスの徹底</p>	<p>【3校共通】 ○「教職員の不祥事防止のためのセルフチェックリスト」の活用により、全教職員のコンプライアンス意識の徹底を図る。 <活動指標>全教職員によるセルフチェックの毎学期の実施 <成果指標>期首面談等の際のチェックリストを話題にした意見交換：全員 ○防災など危機管理事案への対処について定期的に検討する機会を持つ。 <活動指標>定期的な避難訓練（三重病院、医療センターとの連携を含む）の実施と危機管理マニュアルの見直し <成果指標>避難訓練の実施回数：各校3回以上</p>	<p>【3校共通】 ○毎学期のセルフチェック実施 成果指標：取組中 （教育長訓話を受けての全職員との面談） ○連携する2病院と大災害発生に備えた検討会議の立ち上げ 成果指標：達成 （避難訓練：各3回）</p>	
<p>働きやすい職場環境づくり</p>	<p>【3校共通】 教職員一人ひとりの勤務内容を見直し、改善を図ることで生き生きと仕事ができる環境づくりに取り組む。 <活動指標>リフレッシュデーの導入（月1回） 会議の効率化（60分以内） 時間外労働時間の縮減（昨年度比3%減） 休暇取得日数の増加（昨年度比1日増） <成果指標>本校作成の教職員満足度アンケートにより「過度の精神的不安や負担を感じることなく仕事を進めることができる」と回答した教職員の割合：80%以上</p>	<p>【緑ヶ丘校】 時間外労働：12%減 休暇取得：0.04日増 【草の実校】 時間外労働：68%増 休暇取得：0.5日増 （17.6日⇒18.1日） 【あすなる校】 時間外労働：20%減 休暇取得：0.9日増 成果指標：達成困難 （満足度：57・2%）</p>	

改善課題

3校の校務運営については、業務の統合・共通化と業務量削減を意図し、各種会議等で整理を進めたことで一定組織化・効率化を図ることができ成果指標を達成できた面もあるが、一方で時間外労働の縮減に結びつけることができず、職員満足度に係る成果指標も達成困難となった（参考：「日々の仕事にやり甲斐を感じ生き生きしている」も78.0%）。草の実校では教員数の減少に伴い時間外労働時間が増加しており、あらためて業務内容を精選し業務量を吟味するなどの改善が不可欠となっている。

コンプライアンスの徹底については学期毎にチェックリストによる自己点検を徹底することで、成果指標を達成できており、今後も引き続き緊張感をもって学校運営を進めていく必要がある。

5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生支援など新しい取組も加わり、各校ともに実践と研修にしっかり取り組んでいるので、その成果を積極的に地域に発信するべき。対応に苦慮している小中学校や高等学校の教員の支えになることがセンターオブセンターの価値であるはず。 ・子どもの学びの場を3校間で柔軟に対応していく点など、かがやきとして一つの学校になったことを念頭に今後も医療と連携した学校運営を進めてもらいたい。 ・教員の時間外労働等の増加にも関係するが、病院に入院する児童生徒が安心して学習できる環境が不可欠であり、必要な教員数の配当を県にもしっかりと働きかけてもらいたい。
----------------------------	---

6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入院状況下であり多様な教育ニーズを示す子どもたちが安心して学び、スムーズに復学できるよう、復籍支援パンフ等を活用して前籍校との連携をさらに丁寧に進めたい。 ・病弱、肢体不自由、発達障がい等の指導・支援に係る情報をHPや理解啓発用冊子を利用して各校が積極的に発信するなどして、センターオブセンターの機能活用につなげたい。
<p>学校運営についての改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3校が連動した校務運営については今年度の整理に沿って次年度の校内体制に反映させるとともに、より効率的・合理的な運営につながるよう管理職が中心となって組織的に業務改善を継続することで、時間外労働時間の削減につなげていきたい。 ・コンプライアンスについては現在活用中のセルフチェックリストに体罰の項目をウェイト重く位置づけ、引き続き継続実施していきたい。 ・職員満足度の向上に向けては、指標となる項目の見直しとともに、面談等を通して各教職員が意欲的、主体的に働ける目標の設定について共有を図りたい。